

令和5年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度 決算額 （千円）	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
							指標名等	現状値 （基準値）	R4年度		R5年度		中期 目標	予算額 （千円）					
I-3-(3)-① 北九州 環境みらい学 習システ ムの推 進	1	④ ⑰	環境ミュージ アム管理運 営事業	環境学 習課	環境 局環 境学 習課	本市の恵まれた自然や充実した環境関連施設等と結びつけ、多世代の市民が意欲や能力に応じて、エコツアーなどまち全体で楽しく環境学習が行える仕組みづくりを行う。	アンケート調査における環境活動を行う市民の割合	65.7% (H23年度)	目標	85.0 %	85.0 %	95.0% (R12年度)	3,343	3,120	3,043	7,150	順調	【評価理由】 エコツアー参加者数は、令和4年度より増加した。 また、SNSやホームページ等を活用して、環境学習に関する情報発信も継続的に行った。 この結果、環境活動を行う市民の割合が7割を超えたため、「順調」と判断。 【課題】 SNSやホームページ等の様々な媒体をより充実させるなど、継続的かつ効果的に情報発信をする工夫が必要である。	順調
							実績	71.4 %	71.8 %										
							達成率	84.0 %	84.5 %										
I-3-(3)-② 環境人 材のスキ ルアップ と活用	2	④ ⑥ ⑦ ⑩ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	環境ミュージ アム及び北九 州エコハウス 維持管理業務	環境学 習課	環境 局環 境学 習課	北九州市の公害克服の歴史を伝えるとともに、世界の環境首都を目指して市民の環境力を高めるための環境学習・環境活動・環境情報の総合拠点である「環境ミュージアム」及び家庭での省エネ型のライフスタイルを提案する「北九州エコハウス」等の管理運営、及び様々なイベント、企画等により、環境学習や環境活動の場を提供するもの。	環境学習サポーターによる出張ミュージアム回数	80回 (H26年度)	目標	360 回	360 回	360回 (R5年度)	75,383	77,144	75,740	9,225	順調	【評価理由】 環境ミュージアムでは、様々なイベントを開催するとともに、環境学習サポーターによる館内活動や出張ミュージアムの実施、オンラインでの講座、企画展に取り組むなど、環境人材の育成・活用に努めており、好評を得ている。 こうした取組の成果もあり、環境ミュージアム利用者は増加傾向にある。また、環境首都検定の受検者数は目標を達成しなかったものの、一定程度の受検者数を得られたため、「順調」と判断。 【課題】 環境人材の更なる育成を図るため、環境ミュージアムスタッフ・環境学習サポーターや関係団体及び近隣施設等と協働を進め、活動の強化を図る。 また、環境首都検定の受検者増加に向けて、パンフレット等を通じた広報活動を行い、学校だけではなく一般受検者も増加する工夫が必要である。	順調
							実績	291 回	295 回										
							達成率	80.8 %	81.9 %										
							目標	130,000 人	130,000 人										
							実績	75,475 人	76,579 人										
							達成率	58.1 %	58.9 %										

令和5年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度 決算額 （千円）	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題			
							指標名等	現状値 （基準値）	R4年度	R5年度	中期 目標		予算額 （千円）	決算額 （千円）								
	3	④	環境人財育成事業	環境学習課	環境局環境学習課	市民一人ひとりが環境との関わりを理解し、より良い環境・地域づくりへの意識をもって行動を起こすことのできる環境人財を育むため、「環境首都検定」をはじめとする施策に取り組む。	北九州市環境首都検定の受検者数	2,424人 (H26年度)	目標 5,500 人	実績 5,751 人	達成率 104.6 %	5,500 人	4,669 人	5,500人 (R5年度)	11,762	13,425	10,862	9,975	順調	受検啓発の実施（目標：20回、実績：5回）、受検者数は目標を達成しなかったものの、令和4年度に引き続き、一定程度の受検者数を得た。 加えて、全受検区分でWeb受検を実施したことにより、グループ受検団体数は令和4年度より増加（R4：80団体、R5：88団体）したため、「順調」と判断。		
I-3-(3)-③ ESDの推進	4	④ ⑰	ESD活動支援事業	環境学習課	環境局環境学習課	持続可能な社会の構築を図るため、国連など世界規模で進められている「持続可能な開発のための教育（ESD）」を、北九州ESD協議会を中心に、市民、企業、大学等と連携しながら推進する。 具体的には、あらゆる人々が地域等における様々な課題に気づき、つながり、既に実践している活動等にESDの視点を加えて、暮らしや社会のあり方を変えていく人づくり・学びあいの場づくりを進める。	アンケート調査における「持続可能な社会づくり」を意識している市民の割合	—	目標 90.0 %	実績 83.4 %	達成率 92.7 %	90.0% (R5年度)	91.2 %	101.3 %	19,619	19,913	18,899	16,950	順調	対面やオンラインを活用し開催方法を工夫しながら、「ESDツキイチの集い」や「韓国スタディツアー」「交流会イベント」等の事業を積極的に実施した。 また、「ESD出前講座」を市民センターや小中学校に積極的にアピールし、94講座も実施できたことで、「持続可能な社会づくり」を意識する市民の割合増加につながったため、「順調」と判断。	【評価理由】 「北九州ESDアクションプラン2021～2025」で定められているチーム活動推進事業を中心に、交流の活発化を図った。 また、様々な主体との協働により、これまでの活動の更なる推進を図ったことにより、「持続可能な社会づくり」を意識する市民の割合増加につながったため、「順調」と判断。 【課題】 北九州ESD協議会事務局の支援のあり方などについての検討が必要である。 引き続き、様々なステークホルダーとの協働により、ESD活動の推進を図ることが必要である。	

令和5年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	
							指標名等	現状値 (基準値)	R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)						
II-3-(4)-② 国際協力・交流の推進	5	⑫	環境国際協力 推進事業	環境 国際 戦略 課	環境 局環 境国 際戦 略課	<p>途上国技術者を 受け入れる国際研 修や経験豊かな市 内企業技術者等を 諸外国都市に派遣 し、現地で相手都 市も主体的に関 わった実践的な技 術指導を実施す る。</p> <p>また、国内外の 関係機関と協働・ 連携した調査、情 報収集や発信を行 うとともに、各種 都市間ネットワー クを活用したプロ ジェクトを実施す る。更には市内企 業や国際機関等と 密に連携して、協 力対象国や都市の 「緑の成長」にも 資する環境国際協 力を目指す。</p>	戦略的環境国際 協力事業の件数 (累計)	6件 (H26年 度)	目標 15 件 15 件	実績 15 件 15 件	15件 (R5年 度)	1,566	3,000	2,410	6,650	順調	<p>訪日研修や現地専門家派遣 を実施したことにより、事業 実施に係る現地派遣回数 が、目標87回のところ、 実績98回と、目標を達成 したため「順調」と判断。</p>	順調	<p>【評価理由】 環境国際協力推進事業に ついて、対面での事業の実 施が可能となり、訪日研 修や現地専門家派遣を 実施したことにより、事 業の推進につながった。 環境国際推進事業につ いて、アジアカーボン ニュートラルセンター を中核として、環境 国際ビジネスにつな がる国際協力事業に 積極的に取り組んだ。 全体として、成果指 標の目標を概ね達成 していることから「 順調」と判断。</p> <p>【課題】 継続的な各国・都市 ニーズの把握、ニ ーズに合致する市 内企業等の所有技 術・ノウハウの 発掘。</p>	
	6	③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑫ ⑬ ⑯	環境国際推進 事業	環境 国際 戦略 課	環境 局環 境国 際戦 略課	<p>アジアカーボン ニュートラルセン ターを中核とし て、環境に関する 多様な技術や社会 システム等を海外 に輸出すること で、地域経済の活 性化を推進する。 また、環境人材 育成に係る研修の 誘致活動や研修の 実施を通じて、ア ジア諸都市にお ける更なるビジネ ス案件の創出を目 指す。</p>	アジア地域での CO2排出量の削 減	本市CO2 排出量 1,835万 t (H25 年度)	目標 実績 達成率	単年度目標 設定なし	—	—	—	—	23,180	14,267	66,650	順調	<p>アジアの環境人材育成の ための研修員等の受 講者数が、目標の 8割を達成した。 加えて、アジア地 域でのCO2排出量 の削減に向けた各 種プロジェクトの 推進数が目標の 255件を上回る 279件となり、「 順調」と判断。</p>	順調
						アジアの環境人材育成のための研修員等の受講者数（単年度）	1,209人 (H26年 度)	目標 実績 達成率	460 人 374 人 81.3 %	460人 (毎年 度)										

令和5年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題					
							指標名等	現状値 （基準値）	R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 （千円）	予算額 （千円）	決算額 （千円）										
Ⅲ-1- (1)-③ まち美化活動 の拡充	7	⑪ ⑫ ⑭ ⑮	まち美化等啓 発事業	業務課	環境局業務課	<p>北九州市空き缶等の散乱の防止に関する条例（まち美化条例）に基づき、ポイ捨てのない清潔で美しいまちづくりを推進するため、市民や企業、ボランティア団体等と連携し、まち美化事業を実施する。</p> <p>市民の環境美化に対する関心及びモラル・マナーの向上を図り、「世界の環境首都」に相応しい清潔で美しいまちづくりを推進する。</p>	まち美化ボランティア清掃参加者数（単年度）	131,314人 (H28年度)	目標	138,000人	138,000人 (毎年度)	実績	76,620人	達成率	55.5%	3,145	3,444	2,646	3,075	順調	<p>新型コロナウイルス感染症が収束し、減少していたまち美化ボランティア清掃参加者数もコロナ禍以前の水準に戻ってきており、目標を超える101.2%の達成率となった。</p> <p>また、アンケート調査における地域でのまち美化清掃実行の割合も、自主的な参加者の割合が増え、目標に対して75.7%の達成率（令和4年度から6ポイント増）となっており、「順調」と判断。</p>	順調	<p>【評価理由】</p> <p>一定数以上の市民がまち美化ボランティア清掃に参加するなど、まち美化活動が市民参加型の事業として定着し、市民の意識向上につながっていると考える。事業の成果指標の達成率からしても「順調」と判断。</p> <p>【課題】</p> <p>高齢化する団体への対策、若年層の参加者増への取組推進、幼少期からの環境教育の充実などの工夫が必要。</p>	
							まち美化ボランティア清掃参加者数（H29～R3年度の平均値）		76,620人 (H29～R3年度の平均値)	目標		89,000人	実績	90,031人	達成率									101.2%
							アンケート調査における地域でのまち美化清掃実行の割合		47% (H28年度)	目標		60%	実績	41.8%	達成率									69.7%
Ⅳ-1- (1)-④ 地元製品・サービスの 利活用の 推進	8	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	脱炭素サプライチェーン支 援事業	サーキュラーエコノミー推進課	環境局環境イノベーション支援課	<p>市内企業に対し、脱炭素経営を促すため、実際の成功事例の紹介などを行うセミナーを実施する。また、市内企業の環境に配慮した製品や技術、サービスから「北九州エコプレミアム」を選定し、広くPRすることで、市内環境関連産業の活性化を推進する。</p>	北九州エコプレミアム選定件数（単年度）	9件 累計190件 (H26年度)	目標	5件	累計240件 (R6年度)	実績	4件	達成率	80.0%	8,204	4,354	3,773	5,825	順調	<p>北九州エコプレミアムの選定件数について、単年度としては目標を下回ったものの、中期目標の達成に向け、着実に件数を増やしている。（累計236件）</p> <p>また、エコタウン事業の投資額については目標を上回っている。</p> <p>また、エコタウン事業の投資額については、目標を上回っている。</p> <p>以上から、事業全体を総合的に勘案し、「順調」と判断。</p>	順調	<p>【評価理由】</p> <p>北九州エコプレミアムの選定件数について、単年度としては目標を下回ったものの、中期目標の達成に向け、着実に件数を増やしている。（累計236件）</p> <p>また、エコタウン事業の投資額については目標を上回っている。</p> <p>また、エコタウン事業の投資額については、目標を上回っている。</p> <p>以上から、事業全体を総合的に勘案し、「順調」と判断。</p> <p>【課題】</p> <p>北九州エコプレミアムについて、商品・サービス単体の評価ではなく、企業全体で環境負荷低減を求める動きの強まりへの対応及び応募数の伸び悩みが課題である。</p>	
							エコタウン事業による投資額（単年度）		9億円 (H26年度)	目標		7億円	実績	12億円	達成率									171.4%
										目標		7億円	実績	12億円	達成率									171.4%

令和5年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	
							指標名等	現状値 (基準値)	R4年度		R5年度		中期 目標	決算額 (千円)						予算額 (千円)
V-1- (4)-② 再生可能エネルギー・ 基幹エネルギーの 創出拠点の形成	9	⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑬	北九州市風力発電人材育成事業	環境学習課	環境局再生可能エネルギー導入推進課	<p>風力発電関連産業の総合拠点として、その機能を十分に発揮するには、人材の「育成」と「確保」が必要である。</p> <p>このため、「北九州市洋上風力キャンプ」を実施し、市内外の学生等の関心を高め育成を図るとともに、「北九州市風力発電人材育成連絡会」を通じた産学官の連携による人材の確保を目指す。</p>	人材育成に関わる関連企業、教育機関を含めた会議等の実施（累計）	—	目標	24 回	39 回	54回 (R3~R6年度)	32,737	36,000	27,585	8,150	大変順調	<p>【評価理由】</p> <p>北九州市風力発電人材育成事業について、成果指標である「人材育成に関わる関連企業、教育機関を含めた会議等の実施数」が目標39回に対して実績66回と大きく（約1.7倍）上回った。</p> <p>また、水素拠点化推進事業については、福岡県水素拠点化推進協議会において、関係企業・団体、学識経験者と密な検討を実施し、令和6年夏頃を予定する国支援制度の公募に向け着実に水素拠点の形成及びサプライチェーンの構築を推進した。</p> <p>加えて、企業が取り組むFS（実現可能性調査）・技術開発を支援し、企業が国補助金を2件獲得した。</p> <p>以上を総合的に勘案し、「大変順調」と判断。</p>	大変順調	<p>【課題】</p> <p>北九州市風力発電人材育成事業については、人材育成に対する学校の先生・学生の認知度が十分ではない。</p> <p>また、人材確保について、先生が極めて多忙、風力以外の求人が多い等の理由により、風力関係企業と学生の個別協議の時間を確保することが困難である。</p> <p>水素拠点化推進事業については、水素拠点形成及びサプライチェーン構築に向けた国支援制度の獲得に向け、検討の更なる精緻化に取り組む必要がある。</p> <p>また、様々な企業の水素分野への参画を推進するため、FS（実現可能性調査）・技術開発支援に継続的に取り組む必要がある。</p>
	10	⑦ ⑨ ⑬	水素拠点化推進事業	グリーン成長推進課	環境局グリーン成長推進課	<p>企業単独での取組が困難かつイノベーションが必要な、水素（合成メタン・アンモニアを含む）やCO2の回収・利用・貯蔵のプロジェクトを支援する体制の構築に向け、ステークホルダーが参画する組織体を構築し、個別プロジェクト形成、国プロ獲得支援及び国への提言等を行うこととして、製造業の脱炭素化に向けた投資を促す。また、FS・技術開発支援により企業の取組を加速させる。</p>	<p>水素需要量</p> <p>※指標追加（R5年度目標設定時）</p>	0+ (R4年度)	目標	単年度目標設定なし		5,700+ (R12年度)	4,200	37,100	24,079	10,150	順調	<p>福岡県、九州電力（株）、西部ガス（株）、日本製鉄（株）など関連企業・団体、国や学識経験者と「福岡県水素拠点化推進協議会」を設置し、水素需要量調査、水素供給プロジェクトの検討、水素供給インフラ整備の検討、などに取り組み、2030年供給開始を目指した水素拠点の形成及びサプライチェーンの構築を推進した。</p> <p>また、企業が取り組むFS（実現可能性調査）・技術開発を支援した。</p> <p>以上を以て、「順調」と判断。</p>		
					事業可能性調査実施件数	—	目標	2 件	2 件	2件 (毎年度)										
									実績	2 件	2 件									
									達成率	100.0 %	100.0 %									

令和5年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題		
							指標名等	現状値 (基準値)	R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)						目標	実績
V-1-(4)-③ 安定・安価で賢いエネルギー網の構築	11	⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑬	北九州市風力発電人材育成事業	環境学習課	環境局再生可能エネルギー導入推進課	風力発電関連産業の総合拠点として、その機能を十分に発揮するには、人材の「育成」と「確保」が必要である。 このため、「北九州市洋上風力キャンプ」を実施し、市内外の学生等の関心を高め育成を図るとともに、「北九州市風力発電人材育成連絡会」を通じた産学官の連携による人材の確保を目指す。 人材育成に関わる関連企業、教育機関を含めた会議等の実施（累計）	目標	24	回	39	回	54回 (R3~R6年度)	32,737	36,000	27,585	8,150	大変 順調	「人材育成に関わる関連企業、教育機関を含めた会議等の実施数」が目標39回に対して実績66回と大きく（約1.7倍）上回ったため、「大変順調」と判断。	大変 順調	【評価理由】 成果指標である「人材育成に関わる関連企業、教育機関を含めた会議等の実施数」が目標39回に対して実績66回と大きく（約1.7倍）上回ったため、「大変順調」と判断。 【課題】 <人材育成> 洋上風力発電に対する学校の先生・学生の認知度が十分ではない。 <人材確保> 先生が極めて多忙、風力以外の求人が多い等の理由により、風力関係企業と学生の個別協議の時間を確保することが困難である。	
VI-1-(1)-① 市民の力で環境力を高める仕組みづくり	12	② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	市民環境力支援事業	環境学習課	環境局環境学習課	市民環境力の持続的発展を目指し、環境モデル都市を推進する活動への支援や、市民・NPO、事業者など地域社会を構成する各主体が、情報を共有し、新たな取組を生み出し、発信・啓発する北九州エコライフステージ事業などを行う。 エコライフステージ参加者数（単年度）	目標	150万人	以上	150万人	以上	150万人以上 (R5年度)	11,690	12,007	11,996	9,475	やや 遅れ	エコライフステージに関連する行事数は、目標である200を上回る数を実施することができた。 一方で、エコライフステージへの参加者数については、若年層への周知が難しく、目標を下回ったため、「やや遅れ」と判断。	やや 遅れ	【評価理由】 エコライフステージに関連する行事数は、目標である200を上回る数を実施することができた一方で、参加者数が目標を下回ったため、「やや遅れ」と判断。 【課題】 引き続き、市民環境力の発展のため、市内外の幅広い世代に向け、市民、NPO、事業者等が一体となった取組を検討する。	
VI-1-(1)-② 地域コミュニティ活動の支援	13	⑫	古紙・古着リサイクル推進事業	循環社会推進課	環境局循環社会推進課	一般廃棄物の減量化・資源化促進のため、古紙・古着回収奨励金の交付等を通じ、市民団体による集団資源（古紙・古着）回収活動を支援する。 古紙回収に取り組むまちづくり協議会数 一般廃棄物のリサイクル率	目標	137	団体	137	団体	全137団体の参加 (毎年度)	135,349	190,050	127,800	14,150	順調	近年、電子化等による紙の使用量減少に伴い、古紙の集団資源回収量は若干減少傾向である。 古紙については紙の使用量の減少も影響していると考えられる。 古紙回収に取り組むまちづくり協議会の参加率は100%を維持しており、地域の活動は継続されていることから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 古紙の集団資源回収量は若干減少気味であるが、古紙については全国的に紙の使用量が減少している影響を考慮する必要がある。まちづくり協議会の参加率は100%を達成していることから「順調」と判断。 【課題】 古紙の集団資源回収量を増やすため、雑がみについて更なる周知が必要である。 また、集団資源回収団体を増やすための広報も必要である。	
実績	137	団体	137	団体	30%以上 (R7年度)	達成率	100.0	%	100.0	%	目標	単年度目標 設定なし									単年度目標 設定なし

令和5年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
							指標名等	現状値 (基準値)	R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)					
VI-1-(1)-③ 地域の環境特性を活かした取組の推進	14	⑫	地域特性型（メニュー選択方式）市民環境活動推進事業	循環社会推進課	環境局循環社会推進課	地域団体等が自主的に活動する事業（剪定枝リサイクル等）を支援することにより、地域における自主的な環境活動の拡大と地域コミュニティ活動の活性化を図る。	市民1人一日あたりの家庭ごみ量	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	440g以下 (R7年度)	9,715	9,405	8,437	4,575	順調	市民1人一日あたりの家庭ごみ量は減少傾向である。地域の特性を活かした自主的な環境活動の拡大により、環境意識の醸成及び地域コミュニティの活性化につながっていると考えられる。また、3R活動の実施率も高い水準を維持しているなど、環境意識の醸成及び地域コミュニティの活性化につながっていると考えられる。以上を総合して、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 市民1人一日あたりの家庭ごみ量は減少傾向である。地域の特性を活かした自主的な環境活動の拡大により、環境意識の醸成及び地域コミュニティの活性化につながっていると考えられるため、「順調」と判断。 【課題】 参加団体を増やしてリサイクルをさらに推進するために、地域団体への広報活動を強化し認知度を高める必要がある。
								実績	452 g	433 g									
								達成率	—	—									
							目標	86.9 %	86.9 %	86.9% (毎年度)									
実績	87.6 %	85.0 %																	
達成率	100.8 %	97.8 %																	
VI-1-(2)-① 交流の場づくりと連携の強化	15	② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	市民環境力支援事業	環境学習課	環境局環境学習課	市民環境力の持続的発展を目指し、環境モデル都市を推進する活動への支援や、市民・NPO、事業者など地域社会を構成する各主体が、情報を共有し、新たな取組を生み出し、発信・啓発する北九州エコライフステージ事業などを行う。	エコライフステージ参加者数（単年度）	目標	150万人以上	150万人以上	150万人以上 (R5年度)	11,690	12,007	11,996	9,475	やや遅れ	エコライフステージに関連する行事数は、目標である200を上回る数を実施することができた。また、環境ミュージアムでは、様々なイベントを開催するとともに、環境学習サポーターによる館内活動や出張ミュージアムの実施、オンラインでの講座、企画展に取り組みなど、環境人財の育成・活用に努めており、好評を得ている。こうした取組の成果もあり、環境ミュージアム利用者数は増加傾向にある。以上を踏まえ、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 市民環境力支援事業においては、参加者数は目標を下回ったものの、エコライフステージに関連する行事数が、目標である200を上回る数を実施することができた。また、環境ミュージアムでは、様々なイベントを開催するとともに、環境学習サポーターによる館内活動や出張ミュージアムの実施、オンラインでの講座、企画展に取り組みなど、環境人財の育成・活用に努めており、好評を得ている。こうした取組の成果もあり、環境ミュージアム利用者数は増加傾向にある。以上を踏まえ、「順調」と判断。
								実績	90.9 万人	83.7 万人									
								達成率	60.6 %	55.8 %									

令和5年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
							指標名等	現状値 (基準値)	R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)					
16	④ ⑥ ⑦ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰		環境ミュージアム及び北九州エコハウス維持管理業務	環境学習課	環境局環境学習課	北九州市の公害克服の歴史を伝えるとともに、世界の環境首都を目指して市民の環境力を高めるための環境学習・環境活動・環境情報の総合拠点である「環境ミュージアム」及び家庭での省エネ型のライフスタイルを提案する「北九州エコハウス」等の管理運営、及び様々なイベント、企画等により、環境学習や環境活動の場を提供するもの。	環境学習サポーターによる出張ミュージアム回数	80回 (H26年度)	目標 360 回 実績 291 回 達成率 80.8 %	360 回 295 回 81.9 %	360回 (R5年度)	75,383	77,144	75,740	9,225	順調	環境学習サポーターによる出張ミュージアムの回数は令和4年度に比べやや増加した。また、長期休暇を利用したイベントの開催や様々な企画展に取り組むことにより、環境ミュージアム利用者数が令和4年度よりも増加したため、「順調」と判断。		【課題】 引き続き、市民環境力の発展を高めるため、市内外の幅広い世代に向け、市民、NPO、事業者等が一体となった取組を検討する。 また、環境人材の更なる育成を図るため、環境ミュージアムスタッフ・環境学習サポーターや関係団体及び近隣施設等と協働を進め、活動の強化を図る。
VI-1-(2)-② あらゆる主体による環境政策への参加の推進	17	④ ⑰	ESD活動支援事業	環境学習課	環境局環境学習課	持続可能な社会の構築を図るため、国連など世界規模で進められている「持続可能な開発のための教育(ESD)」を、北九州ESD協議会を中心に、市民、企業、大学等と連携しながら推進する。具体的には、あらゆる人々が地域等における様々な課題に気付き、つながり、既に実践している活動等にESDの視点を加えて、暮らしや社会のあり方等を変えていく人づくり・学びあいの場づくりを進める。	アンケート調査における「持続可能な社会づくり」を意識している市民の割合	—	目標 90.0 % 実績 83.4 % 達成率 92.7 %	90.0 % 91.2 % 101.3 %	90.0% (R5年度)	19,619	19,913	18,899	16,950	順調	対面やオンラインを活用し開催方法を工夫しながら、「ESDツキイチの集い」や「韓国スタディツアー」「交流会イベント」等の事業を積極的に実施した。また、「ESD出前講座」を市民センターや小中学校に積極的にアピールし、94講座も実施できたことで、「持続可能な社会づくり」を意識する市民の割合増加につながった。	順調	【評価理由】 「北九州ESDアクションプラン2021～2025」で定められているチーム活動推進事業を中心に、コロナ禍で十分に行えなかった交流の活発化を図った。 また、様々な主体との協働により、これまでの活動の更なる推進を図ったことにより、「持続可能な社会づくり」を意識する市民の割合増加につながった。 環境首都検定の受検者数については目標達成しなかったものの、一定の受検者数を得られたため、「順調」と判断。 【課題】 北九州ESD協議会事務局の支援のあり方などについての検討が必要である。 引き続き、様々なステークホルダーとの協働により、ESD活動の推進を図ることが必要である。 また、環境人財育成事業については、環境首都検定の受検者増加に向けて、パンフレット等を通じた広報活動を行い、学校だけではなく一般

令和5年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度 決算額 （千円）	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
							指標名等	現状値 （基準値）	R4年度	R5年度	中期 目標		予算額 （千円）	決算額 （千円）					
	18	④	環境人財育成 事業	環境 学習 課	環境 局 環境 学習 課	市民一人ひとりが環境との関わりを理解し、より良い環境・地域づくりへの意識をもって行動を起こすことのできる環境人財を育むため、「環境首都検定」をはじめとする施策に取り組む。	北九州市環境首都検定の受検者数	2,424人 (H26年度)	目標 5,500 人 実績 5,751 人 達成率 104.6 %	5,500 人 4,669 人 84.9 %	5,500人 (R5年度)	11,762	13,425	10,862	9,975	順調	受検者も増加する工夫が必要である。		
VI-1-(2)-③ 環境情報の収集・整備・提供	19	② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	環境施策広報 事業	環境 学習 課	環境 局 環境 学習 課	世界の環境首都を目指す北九州市の環境施策について、環境マスコットキャラクター「ていたん」を活用した広報・PRを継続して行い、市民の環境意識向上を図る。	アンケート調査における環境マスコットキャラクターの認知度	52.2% (H27年度)	目標 65.0 % 実績 67.7 % 達成率 104.2 %	65.0 % 70.3 % 108.2 %	65.0% (R5年度)	9,512	9,370	8,549	8,700	順調	令和4年度と比べ、アンケート調査における環境マスコットキャラクターの認知度が、増加しており、目標を達成しているため、一定の効果があつたものとし、「順調」と判断。	【評価理由】 世界の環境首都を目指す北九州市の環境施策について、環境マスコットキャラクターを活用した地道な活動が老若男女問わず功を奏してきている。環境情報の収集・整備・提供に寄与していると考えられるため、「順調」と判断。 【課題】 環境マスコットキャラクターの認知度の更なる向上及び市民の環境活動への意識向上のため、SNSを活用した効果的な活動・周知が必要である。	
VI-2-(2)-① 市民・企業などによるCO2削減	20	⑦ ⑮	北九州市役所 環境・エネルギープロジェクト推進事業	再生 可能 エネルギー 導入 推進 課	環境 局 再生 可能 エネルギー 導入 推進 課	環境モデル都市としての市役所の率先垂範を實踐し、省エネ法及び温対法の規制へ対応するため、平成23年度から実施している本事業により市役所の環境・エネルギー対策を行い、更なる省エネ・節電を推進する。	市有施設のエネルギー消費原単位の改善	H22年度 総エネルギー 使用量 実績 (原油換 算 89,599k l)	目標 78,847 kl 実績 78,291 kl 達成率 99.3 %	77,951 kl 集計中	R12年度 までに H22年度 比 20%減 (エネルギー 使用量原 油換算 71,679k l)	3,771	7,880	2,797	5,575	順調	消防局の所管する5つの施設の空調機を利用して、1日の電力市場価格に連動した制御実証を行った。 これにより、快適性を損なうことなく、小売り電気事業者の電力仕入れ価格の低減及び公共施設の電力料金削減、地域の電力安定供給に寄与したため「順調」と判断。	【評価理由】 北九州市役所環境・エネルギープロジェクト推進事業においては、消防局にて実証を行い、快適性を損なうことなく小売電気事業者の電力仕入れ価格の低減及び公共施設の電力料金削減、地域の電力安定供給に寄与した。中小企業の競争力を生み出す脱炭素化推進事業やKitaQ Zero Carbonプロジェクトにおいては、一部の実績で、目標を下回るものがあつた。一方で、市内事業者等への再エネ100%北九州モデル普及推進事業等では、市内の再エネ導入量は目標の8割以上に達した。	

令和5年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	旧所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	
							指標名等	現状値 (基準値)	R4年度		R5年度		中期 目標	決算額 (千円)						予算額 (千円)
21	⑦ ⑧ ⑨ ⑯		中小企業の競争力を生み出す脱炭素化推進事業	再生可能エネルギー導入推進課	環境再生可能エネルギー導入推進課	再生可能エネルギーの活用により、深刻化する気候変動問題への対応と地域活性化への貢献を率先的に進め、市内の使用電力を100%再生エネで賄う北九州市版RE100を図るため、再生エネ導入や省エネ方法等の最適化について、実現可能性を調査し検討する。 さらに、低炭素社会の実現に向け、市内中小企業へRE100を促し、自家消費型太陽光発電設備や蓄電池の導入支援する。また、省エネ実践行動の更なる推進、最先端の省エネ機器やエネルギーマネジメントシステムの導入支援を行う。 当事業により環境に配慮しつつ中小企業の競争力を高める。	省エネ投資額 (千円) ※中期目標改訂 (R5年度目標設定時)	336,998 千円 (H28年度)	目標 90,000 千円	実績 860,961 千円	90,000 千円	34,951 千円	累計 1,390,000千円 (H28～R5年度)	249,393	39,000	14,857	4,825	やや遅れ	市内中小企業の太陽光発電設備や省エネ機器の導入を支援するための補助金活用件数については、目標件数であった15件の7割以上である11件の活用があった。 一方で、投資額については、昨今の資材不足等の影響により、「大規模な設備導入では年度末までの完工が難しい」などの理由から、比較的小規模での導入を行うための交付申請が多く、目標を下回ることとなった。 以上を踏まえ、「やや遅れ」と判断した。	【課題】 北九州市役所環境・エネルギープロジェクト推進事業について、令和4年度のエネルギー使用量の目標は達成しているため、引き続き市役所の省エネを図るための取組を進めていく必要がある。 KitaQ Zero Carbonプロジェクトにおいては、更なる周知に向けて引き続き検討を行う。 加えて、更なる温室効果ガス排出量削減に向けて、市民一人一人の自発的な行動を促す啓発が必要である。
						補助金活用件数 (件) ※中期目標改訂 (R5年度目標設定時)	61件 (H28年度)	目標 12 件	実績 133 件	15 件	11 件	累計 240件 (H28～R5年度)	達成率 1,108.3 %							
22	⑦ ⑪ ⑫ ⑯ ⑰		地球温暖化対策推進事業	グリーン成長推進課・環境学習課	環境グリーン成長推進課	令和3年8月に改定した「北九州市地球温暖化対策実行計画」に掲げた目標の着実な達成に向け、市民、事業者、行政がこれまで以上に計画的かつ効果的に取組を推進する必要があるため、各種調査及び啓発事業の強化等を行う。	温室効果ガス排出量の削減（万t） ※中期目標改訂 (R5年度目標設定時)	温室効果ガス排出量 1,859万t (2013年度)	目標 単年度目標 設定なし	実績 —	単年度目標 設定なし	—	2030年度温室効果ガス排出量2013年度比47%減	4,038	7,533	4,043	3,650	順調	北九州市地球温暖化対策実行計画の達成に向け、出前講演を通じた啓発事業等を実施したほか、温室効果ガス排出量については、毎年減少傾向を維持している。 以上を総合して、「順調」と判断。	

令和5年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度 決算額 （千円）	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
							指標名等	現状値 （基準値）	R4年度	R5年度	中期 目標		予算額 （千円）	決算額 （千円）					
23	⑦ ⑪ ⑫ ⑬ ⑰		KitaQ Zero Carbon関連プロジェクト創出事業	環境学習課	環境局グリーン成長推進課	KitaQ Zero Carbonプロジェクトの更なる普及拡大に向けて、学生が中心となった市民参加型啓発イベント等の企画・実施を、プロジェクトパートナーとの連携促進も含めて一体的にサポートすることで、Z世代への訴求力を高め、次世代のリーダーを育成するとともに、民間主導による自発的なプロジェクトの創出を促進するもの。	温室効果ガス排出量の削減（万t）	現状値 （基準値）	R4年度	R5年度	中期 目標	532	2,400	1,130	8,150	やや遅れ	KitaQ Zero Carbonポータルサイトへのアクセス数が15,221件と目標の25,000件を下回っており、市民や企業への情報発信が不足していたため「やや遅れ」と判断。		
							※中期目標改訂（R5年度目標設定時）	温室効果ガス排出量 1,859万 + (2013年度)	—	—	2030年度温室効果ガス排出量2013年度比47%減								
24	⑦ ⑧ ⑨ ⑬		脱炭素社会の実現に向けた「再エネ100%北九州モデル」推進事業	再生可能エネルギー導入推進課	環境局再生可能エネルギー導入推進課	脱炭素社会の実現に向けて、 ・公共施設群及びエコタウンの再エネ100%電力化 ・EVを活用した自律型エネルギー実証 ・北九州都市圏域への再エネ普及促進 ・バイオマスエネルギー等活用推進 ・市有施設のZEB化に取り組む。	PV・風力等再エネ導入量（kW・累計）	0kW (R3年度)	目標	512,980 kW	500,917 kW	14,442	461,700	535,036	18,950	順調	国の交付金を活用した再エネ発電設備の導入は、電源ケーブルの納入遅れなどにより完工が遅れているが、再エネの導入量は、目標の8割以上を達成したため、「順調」と判断。		
							実績	451,417 kW	442,906 kW	756,946 kW (R12年度)									
							達成率	88.0 %	88.4 %										
							目標	496,000 +	485,000 +										
C02削減量（t）	0t (R3年度)	実績	349,143 +	341,936 +	累計 3,113,743tC02 (R4～R12年度)														
達成率	70.4 %	70.5 %																	

令和5年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	
							指標名等	現状値 （基準値）	R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 （千円）	予算額 （千円）	決算額 （千円）						
25	⑦ ⑧ ⑨ ⑩		市内事業者等 への再エネ 100%北九州 モデル普及推 進事業	再生 可能 エネ ギー 導入 推進 課	環境 再生 可能 エネ ギー 導入 推進 課	環境省が令和5年 度に実施する予定 の「地域脱炭素移 行・再エネ推進交 付金」の重点対策 加速化事業を活用 しつつ、脱炭素先 行地域における第 三者所有方式によ る太陽光発電設備 や省エネ機器の設 置（再エネ100%北 九州モデル）を市 内のスーパーマー ケット、ドラッグ ストア、脱炭素電 力認定企業等に横 展開する。	PV・風力等再エ ネ導入量（kW・ 累計）	0kW （R3年 度）	目標	500,917 kW	756,946 kW （R12年 度）	—	103,000	80,000	18,950	順調	国の交付金を活用した市内 事業者への再エネ発電設備交 付金の執行率は10割を達成 し、市内の再エネの導入量 は、目標の8割以上を達成した ため、「順調」と判断。			
									実績	442,906 kW										達成率
						CO2削減量（t）	0t （R3年 度）	目標	485,000 t	累計 3,113,7 43tCO2 （R4～ R12年 度）										
								実績	341,936 t											達成率
VI-2- (2)-② 低炭素 社会に 貢献す る技術 開発、 製品・ サービス 提供拠 点の形 成	26	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	脱炭素サプ ライチェ ーン支 援事業	サー キュ ラー エコ ノー ミー 推進 課	環境 環境 イノ ベー ション 支援 課	市内企業に対 し、脱炭素経営を 促すため、実際の 成功事例の紹介な どを行うセミナー を実施する。また 、市内企業の環 境に配慮した製品 や技術、サービス から「北九州エコ プレミアム」を選 定し、広くPRす ること、市内環 境関連産業の活 性化を推進する。	北九州エコプレ ミアム選定件数 （単年度）	9件 累計190 件 （H26年 度）	目標	5 件	5 件	累計240 件 （R6年 度）	8,204	4,354	3,773	5,825	順調	北九州エコプレミアムの選 定件数について、単年度とし ては目標を下回ったものの、 中期目標の達成に向け、着実 に増やしている。（累計236 件） また、エコタウン事業の投 資額については目標を上回っ ている。 環境未来技術開発助成につ いて、累計事業化数は目標値 を上回っており、脱炭素社会 に貢献する技術開発、製品・ サービス提供拠点の形成に寄 与していると考えられる。 以上から、事業全体を総合 的に勘案し、「順調」と判 断。	順調	【評価理由】 北九州エコプレミアムの選 定件数について、単年度とし ては目標を下回ったものの、 中期目標の達成に向け、着実 に増やしている。（累計236 件） また、エコタウン事業の投 資額については目標を上回っ ている。 環境未来技術開発助成につ いて、累計事業化数は目標値 を上回っており、脱炭素社会 に貢献する技術開発、製品・ サービス提供拠点の形成に寄 与していると考えられる。 以上から、事業全体を総合 的に勘案し、「順調」と判 断。
									実績	4 件	3 件									
						エコタウン事業 による投資額 （単年度）	9億円 （H26年 度）	目標	7 億円	7 億円	7億円 （毎 年度）									
								実績	12 億円	12 億円										達成率

令和5年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	
							指標名等	現状値 (基準値)	R4年度		R5年度		中期 目標	決算額 (千円)						予算額 (千円)
	27	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	環境未来技術 開発助成事業	サー キュ ラー エコ ノ ミー 推 進 課	環 境 局 環 境 イ ノ ベ ー シ ョ ン 支 援 課	新規性、独自性に優れた環境技術の研究開発費の一部助成により、中小企業をはじめとした地元企業等に技術開発の機会を提供するとともに、本市における環境分野の技術の集積を促す。	本助成事業で助成した研究開発の事業化数（累計）	27件 (H26年度)	目標 39 件	実績 41 件	40 件	42 件	40件 (R5年度まで)	38,310	48,000	40,009	4,595	順調	令和5年度までの助成件数（累計）のうち、事業化した件数は目標を上回っている。また、採択状況についても、着実に件数を伸ばしていることから、「順調」と判断。	また、環境未来技術開発助成などによる新ビジネスの創出及びサーキュラーエコノミー（循環経済）の推進は、新ビジョンの重点事業の一つであり、今後、更に市内企業等への支援に注力していく必要がある。
VI-3-(1)-① 市民環境力による3R活動の推進	28	⑫	古紙・古着リサイクル推進事業	循環社会推進課	環 境 局 循 環 社 会 推 進 課	一般廃棄物の減量化・資源化促進のため、古紙・古着回収奨励金の交付等を通じ、市民団体による集団資源（古紙・古着）回収活動を支援する。	古紙回収に取り組みまちづくり協議会数	132団体 (H26年度)	目標 137 団体	実績 137 団体	137 団体	137 団体	全137団体の参加（毎年度）	135,349	190,050	127,800	14,150	順調	【評価理由】 市民の環境意識を高める為、積極的に啓発を行うなど、適正な廃棄物の処理に寄与していると考えられるため、「順調」と判断。 【課題】 一般廃棄物のリサイクル率については上昇傾向にある。目標値達成に向けて、ごみの分別の徹底や事業系ごみ対策などに取り組む必要がある。	
							一般廃棄物のリサイクル率	28.0% (R1年度)	目標 単年度目標設定なし	実績 26.6 %	27.2 %	30%以上 (R7年度)	達成率 —							—
29	⑫		地域特性型（メニュー選択方式）市民環境活動推進事業	循環社会推進課	環 境 局 循 環 社 会 推 進 課	地域団体等が自主的に活動する事業（剪定枝リサイクル等）を支援することにより、地域における自主的な環境活動の拡大と地域コミュニティ活動の活性化を図る。	市民1人一日あたりの家庭ごみ量	468g (R1年度)	目標 単年度目標設定なし	実績 452 g	433 g	440g以下 (R7年度)	9,715	9,405	8,437	4,575	順調	市民1人一日あたりの家庭ごみ量は減少傾向である。また、3R活動の実施率も高い水準を維持しているなど、環境意識の醸成及び地域コミュニティの活性化につながっていると考えられる。以上を総合して、「順調」と判断。		
							市民アンケート調査における3R活動の実施率	86.9% (H28年度)	目標 86.9 %	実績 87.6 %	85.0 %	86.9% (毎年度)							達成率 100.8 %	97.8 %

令和5年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	
							指標名等	現状値 (基準値)	R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)						
30	⑩		広げよう食品ロス・生ごみ削減の環づくり事業	循環社会推進課	環境局循環社会推進課	食品ロス削減の取組「残しま宣言」運動の普及・啓発や、生ごみリサイクル講座等の実施によって、生ごみの減量化・資源化を推進する。	市民1人1日あたりの家庭ごみ量	目標	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	440g以下 (R7年度)	6,354	7,800	4,671	8,825	順調	市民団体「生ごみコンポストアドバイザーの会」とともに実施している生ごみリサイクル講座への参加者が着実に増加しており、地域に根差した活動が定着してきたと考えられる。 また、食品ロス削減の取組「残しま宣言」運動や、フードバンクと連携したフードドライブなどに取り組み、市民の環境意識向上や、生ごみの資源化・減量化の促進に貢献していると考えられることから「順調」と判断。			
								実績	452 g	433 g										
達成率	—	—																		
31	⑫		事業系ごみ対策事業	循環社会推進課	環境局循環社会推進課	事業所に対する一般廃棄物の減量化等の推進を図る。	一般廃棄物のリサイクル率	目標	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	30%以上 (R7年度)	—	1,230	551	7,825	順調	事業所へのごみ減量化に関する講習会の実施や事業所訪問を行った。 すべての条例対象事業所からの再生利用に関する実績報告書が提出されており減量化の促進に貢献していると考えられることから「順調」と判断。			
								実績	28.0% (R1年度)	27.2 %										
								達成率	—	—										
32	⑨ ⑫ ⑬ ⑭ ⑰		北九州市プラスチックスマート推進事業	循環社会推進課	環境局循環社会推進課	国の動向と歩調を合わせながら、これまでの取り組みに加え、更なるプラスチックごみの資源循環に向けた施策を推進する。	プラスチックの分別協力率	目標	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	60%以上 (R12年度)	23,513	30,000	22,213	13,075	順調	令和5年10月からのプラスチック資源一括回収事業の開始に向けて、事業内容を市民に分かりやすく周知するために、市政だより・新聞広告・SNS等の様々な媒体を用いて広報活動に取り組んだ。 また、事業開始後も分別協力やごみ袋への不適物混入防止の啓発を継続して実施し、プラスチックごみ削減を推進した。 以上を総合して、「順調」と判断。			
								実績	44.4% (R1年度)	44.5 %										38.5 %
								達成率	—	—										
							市民1人1日あたりの家庭ごみ量	目標	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	440g以下 (R7年度)	—	—							
								実績	452 g	433 g										
								達成率	—	—										

令和5年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	
							指標名等	現状値 (基準値)	R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)						
VI-3-(1)-② 適正な 廃棄物 の処理	33	⑩	第2期北九州 市循環型社会 形成推進基本 計画推進事業	循環 社会 推進 課	環境 局 環 境 社 会 推 進 課	<p>本市では、第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画（本市の一般廃棄物処理計画）を策定し、ごみの減量化・資源化、適正処理の推進等を行っている。</p> <p>本事業では本市のごみ処理に関する現状を分析し、より効果的・効率的な施策や啓発・広報の方法の検討を行う。</p>	市民1人一日あたりの家庭ごみ量	468g (R1年 度)	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	440g以 下 (R7年 度)	945	1,046	136	2,325	順調	市民1人一日あたりの家庭ごみ量は中期目標を達成しているため、「順調」と判断。	順調	<p>【評価理由】</p> <p>成果指標である市民1人一日あたりの家庭ごみ量は減少傾向である。</p> <p>市民の環境意識を高めるため、継続的に啓発を行い、適正な廃棄物の処理に寄与していると考えられるため、「順調」と判断。</p> <p>【課題】</p> <p>一般廃棄物のリサイクル率については上昇傾向にある。目標値達成に向けて、ごみの分別の徹底や事業系ごみ対策などに取り組む必要がある。</p>
									実績	452 g	433 g									
VI-3-(1)-③ 産業廃 棄物排 出量の 減量化	34	③ ⑥ ⑩ ⑫	産業廃棄物処 理推進事業	産業 廃棄 物対 策課	環境 局 産 業 廃 棄 物 対 策 課	<p>産業廃棄物の適正処理・3Rを推進するため、優れた排出事業者・処理業者への認定やインセンティブ付与、排出・処理動向や将来見通しの分析・公表、産業廃棄物3R・適正処理講習会等を活用した適正処理・3R情報の普及啓発を実施する。</p>	優良産廃処理業者の認定件数（単年度）	4件 (H26年 度)	目標	2 件	2 件	2件 (R1年度 以降毎 年度)	9,035	14,105	11,435	615	大変 順調	令和4年度に引き続き、会場及びYouTube配信による講習会を実施（受講者数710名）し、産業廃棄物の適正処理、3Rの推進について啓発を行った。	大変 順調	<p>【評価理由】</p> <p>講習会や市内産業廃棄物動向の分析を通して適正処理を促進し、優良事業者を7社認定するなど、産業廃棄物排出量の減量化が進んでいると考えられるため、「大変順調」と判断。</p> <p>【課題】</p> <p>適正処理の確保に加え、脱炭素化と循環経済や脱炭素化を促進するため、業界全体において新たな取組に着手する必要がある。</p>
							優良排出事業者の認定件数（単年度）	2件 (H26年 度)	目標	2 件	2 件									

令和5年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度 決算額 (千円)	R5年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
							指標名等	現状値 (基準値)	R4年度		R5年度		中期 目標	予算額 (千円)					
VI-3- (2)-① 次世代 資源循 環型産 業拠点 の形成	35	⑦ ⑧ ⑨ ⑫ ⑰	北九州エコタ ウン事業	サー キュ ラー エコ ノ ミー 支 援 課	環境 局環 境イ ノ ベー ショ ン支 援課	資源循環型社会 の実現に向けて、 環境産業の集積化 と環境・エネル ギー技術開発の拠 点化を図るため、 企業支援や国等関 係機関との協議の ほか、貸付用地の 維持管理を行う。	エコタウン事業 による投資額 (単年度)	9億円 (H26年 度)	目標 7 億円	実績 12 億円	達成率 171.4 %	7億円 (毎年 度)	7,051	22,060	9,350	4,575	大変 順調	エコタウン視察者数につ いて、目標を上回ることが できた。また、投資額につ いても目標を上回っている ことから、「大変順調」と 判断。	【評価理由】 北九州エコタウン事業につ いて、エコタウン視察者数 は、目標を上回った。 また、投資額についても、 目標を上回っている。 令和5年度は、蓄電池リサイ クルに向けた課題を整理し、 解決の方向性を検討。また、 計画実現に向けて、個別施策 の実施スケジュールを策定 し、車載蓄電池サーキュラー エコノミーモデルに参加する 事業者数を設定し、参加事業 者の確保に目途がついた。 以上から、事業全体を総合 的に勘案し、「大変順調」と 判断。
	エコタウン視察 者数（単年度）	100,332 人 (H26年 度)	目標 100,000 人	実績 81,650 人	達成率 81.7 %	100,000 人	101,226 人	101.2 %	10万人 (毎年 度)										
	36	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	蓄電池のリ ユース・リサ イクルシステ ム構築事業	サー キュ ラー エコ ノ ミー 支 援 課	環境 局環 境イ ノ ベー ショ ン支 援課	カーボンニュート ラルのキーテク ノロジーである蓄 電池産業のさらなる 集積を図るため、 車載用蓄電池の リユース・リサイ クル拠点化を図 るとともに、その トータルコストを 低減する仕組みを 構築する。 また、EV電池を 定置型蓄電池とし て活用するリユ ースや、第三者所有 方式による蓄電池 利用システムなど 蓄電池の活用を全 国に先駆けて推進 していくもの。	車載蓄電池サー キュラーエコノ ミーモデルに参 加する事業者数	—	目標 3社以上	実績 3 社	達成率 100.0 %	—	4,000	4,114	4,575	順調	令和5年度は、蓄電池リサイ クルに向けた課題を整理し、 解決の方向性を検討。また、 計画実現に向けて、個別施策 の実施スケジュールを策定し た。 設定した車載蓄電池サー キュラーエコノミーモデルに 参加する事業者数の目標を達 成したことから、「順調」と 判断。	【課題】 「エコタウン事業」は、日 本最大級のリサイクル産業の 集積地であり、国内外から高 く評価されている。 この事業を世界経済の潮流 であるサーキュラーエコノ ミーに対応させ、新たな事業 を創出していくことが必要で ある。	

令和5年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
							指標名等	現状値 (基準値)	R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)					
VI-3-(2)-② 環境分野における技術開発の促進	37	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	環境未来技術開発助成事業	サーキュラーエコノミー推進課	環境局環境イノベーション支援課	新規性、独自性に優れた環境技術の研究開発費の一部助成により、中小企業をはじめとした地元企業等に技術開発の機会を提供するとともに、本市における環境分野の技術の集積を促す。	本助成事業で助成した研究開発の事業化数（累計）	27件 (H26年度)	目標 39 件 実績 41 件 達成率 105.1 %	40 件 42 件 105.0 %	40件 (R5年度まで)	38,310	48,000	40,009	4,595	順調 令和5年度までの助成件数（累計）のうち、事業化した件数は目標を上回っている。また、採択状況についても、着実に件数を伸ばしていることから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 累計事業化数は、目標を上回っており、脱炭素社会に貢献する技術開発、製品・サービス提供拠点の形成に寄与していると考えられるため、「順調」と判断。 【課題】 環境未来技術開発助成などによる新ビジネスの創出及びサーキュラーエコノミー（循環経済）の推進は、新ビジョンの重点事業の一つであり、今後、更に市内企業等への支援に注力していく必要がある。	
VI-4-(1)-① 多様な自然環境・生物多様性の保全	38	② ④ ⑥ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	生物多様性戦略推進事業	再生可能エネルギー導入推進課	環境局環境監視課	都市と自然との共生「豊かな自然の恵みを活用し自然と共生するまち」を基本理念に、生物多様性を保全し、将来にわたって持続可能な形で利用が可能な都市づくりを目指す。	環境首都100万本植樹プロジェクト推進（累計）	657,903本 (H27年度)	目標 937,000 本 実績 784,926 本 達成率 83.8 %	970,000 本 800,070 本 82.5 %	累計 100万本 植樹 (R6年度)	13,717	12,504	11,410	16,300	順調 環境首都100万本植樹プロジェクトによる植樹本数（累計）について、目標には届かなかったものの、プロジェクト全体としては順調に推移している。また、自然環境保全活動参加者数は目標値を大きく上回っており、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 自然環境保全に関する取組に対し、目標を大きく上回り、多くの人が活動に参加した。また、環境首都100万本植樹プロジェクトによる緑化も進んでおり、多様な自然環境・生物多様性の保全に寄与していると考えられるため、「順調」と判断。 【課題】 自然環境保全に関する活動は、市民（特に団体）の自主的な活動が不可欠であるため、市として継続的に支援し活性化を図る必要がある。	
						自然環境保全活動参加者数（イベント等の延べ参加者数）	2,000人 (毎年度)	目標 2,000 人 実績 2,000 人 達成率 100.0 %	2,000 人 3,100 人 155.0 %	2,000人 (毎年度)									

令和5年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
							指標名等	現状値 (基準値)	R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)					
VI-4-(1)-② 身近に自然を感じる都市づくり	39	② ④ ⑥ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	生物多様性戦略推進事業	再生可能エネルギー導入推進課	環境局環境監視課	都市と自然との共生「豊かな自然の恵みを活用し自然と共生するまち」を基本理念に、生物多様性を保全し、将来にわたって持続可能な形で利用が可能な都市づくりを目指す。	環境首都100万本植樹プロジェクト推進（累計）	目標	937,000 本	970,000 本	累計 100万本 植樹 (R6年度)	13,717	12,504	11,410	16,300	順調	環境首都100万本植樹プロジェクトによる植樹本数（累計）について、目標には届かなかったものの、プロジェクト全体としては順調に推移している。 また、自然環境保全活動参加者数は目標を大きく上回っており、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 自然環境保全に関する取組に対し、目標を大きく上回り、多くの人が活動に参加した。 また、環境首都100万本植樹プロジェクトによる緑化も進んでおり、身近に自然を感じる都市づくりにも寄与していると考えられるため、「順調」と判断。 【課題】 自然環境保全に関する活動は、市民（特に団体）の自主的な活動が不可欠であるため、市として継続的に支援し活性化を図る必要がある。
								実績	784,926 本	800,070 本									
目標	2,000 人	2,000 人	実績	2,000 人	3,100 人	達成率	100.0 %	155.0 %											
VI-4-(1)-③ 市民と自然とのふれあいの推進	40	④ ⑮	響灘ビオトープ運営事業	再生可能エネルギー導入推進課	環境局環境監視課	絶滅危惧種をはじめ、500種類以上の動植物が生息する環境を保全しつつ、市民が見て触れて、自然生態系の仕組みや生物多様性の重要性などが学習できる施設として響灘ビオトープの運営を行う。	響灘ビオトープでのガイドツアーへの参加人数	目標	4,000 人	4,000 人	4,000人 (毎年度)	45,504	45,616	45,685	7,225	順調	イベントの実施やガイドツアーの開催など、市民の環境に対する意識を高めるきっかけとなる場を提供した。ガイドツアーの参加人数が目標を上回っており、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 響灘ビオトープでは、市民の環境に対する意識を高めるきっかけとなる場を提供し、一定の参加があった。 生物多様性戦略推進事業においては、曾根干潟の自然環境調査（鳥類、底生動物）を行い、保全を行う上で必要な現況把握を行うとともに、エコツーリズムにより、市民に自然とふれあう機会を作り、豊かな自然環境の周知を行えたと考えられるため、「順調」と判断。 【課題】 市民への周知方法については、体験型ツアーなど、よりわかりやすい形で自然の価値について理解を深められるよう拡充し、内容の充実を図る必要がある。
								実績	5,498 人	4,244 人									
目標	937,000 本	970,000 本	実績	784,926 本	800,070 本	達成率	83.8 %	82.5 %											
VI-4-(1)-③ 市民と自然とのふれあいの推進	41	② ④ ⑥ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	生物多様性戦略推進事業	再生可能エネルギー導入推進課	環境局環境監視課	都市と自然との共生「豊かな自然の恵みを活用し自然と共生するまち」を基本理念に、生物多様性を保全し、将来にわたって持続可能な形で利用が可能な都市づくりを目指す。	環境首都100万本植樹プロジェクト推進（累計）	目標	937,000 本	970,000 本	累計 100万本 植樹 (R6年度)	13,717	12,504	11,410	16,300	順調	環境首都100万本植樹プロジェクトによる植樹本数（累計）について、目標には届かなかったものの、プロジェクト全体としては順調に推移している。 また、自然環境保全活動参加者数は目標を大きく上回っており、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 自然環境保全に関する取組に対し、目標を大きく上回り、多くの人が活動に参加した。 また、環境首都100万本植樹プロジェクトによる緑化も進んでおり、身近に自然を感じる都市づくりにも寄与していると考えられるため、「順調」と判断。 【課題】 市民への周知方法については、体験型ツアーなど、よりわかりやすい形で自然の価値について理解を深められるよう拡充し、内容の充実を図る必要がある。
								実績	784,926 本	800,070 本									
目標	2,000 人	2,000 人	実績	2,000 人	3,100 人	達成率	100.0 %	155.0 %											

令和5年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
							指標名等	現状値 （基準値）		R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 （千円）	予算額 （千円）					
VI-4- (2)-① 生活環 境保全 対策の 推進	42	③ ⑥ ⑪ ⑫	不法投棄防止 事業	産業 廃棄 物対 策課	環境 局産 業廃 棄物 対策 課	市内の産業廃棄物の不法投棄の未然防止や拡大防止を目的とし、監視パトロール、監視カメラ整備、市民通報員の活用により、早期発見・早期撤去を進めるとともに、警察と連携して実行者へ厳しく対処する。	廃棄物の不法投棄件数（単年度）	1,100件 (H26～ 30年度 の平均 値)	目標 1,100件 以下 実績 497 件 達成率 154.8 %	R4年度 1,100件 以下 R5年度 462 件 158.0 %	1,100件 以下 (R2年度 以降毎 年度)	10,192	14,252	11,040	11,650	大変 順調	廃棄物の不法投棄件数は、目標よりも大幅に少なく、令和4年度（497件）と比べても減少しているため、「大変順調」と判断。		
	43	③ ⑪ ⑫	大気汚染常時 監視システム 整備保守事業	環境 監視 課	環境 局環 境監 視課	大気汚染防止法第22条の規定に基づく大気汚染状況の常時監視を行うため、公害監視センターと市内に設置した常時監視測定局から成る測定網の整備・保守を行う。常時監視結果を本市の環境保全の推進に役立てるとともに、大気環境の現状把握に努める。	大気環境の適正な把握	—	目標 — 実績 — 達成率 —	—	大気環 境の適 正な把 握	13,473	13,474	13,473	6,075	順調	測定装置の更新計画に基づき、適切に測定環境を整備し、正確な測定を継続実施したため、「順調」と判断。	【評価理由】 監視パトロール等の実施や警察との連携による実行者の特定等により、近年は不法投棄事案も減少傾向にある。 また、計画的なモニタリング、正確な測定の継続実施により、生活環境の保全に繋がっていると考えられるため、「大変順調」と判断。	【課題】 不法投棄を防止するため、監視カメラ設置場所の見直しが必要である。 また、大気汚染常時監視測定網の整備・保守を今後も継続する必要がある。
	44	③ ⑥ ⑪ ⑫	環境対策事業	環境 監視 課	環境 局環 境監 視課	環境法令に基づき、大気汚染や水質汚濁、騒音・振動の監視測定（環境モニタリング）などを行い、環境質の現状を把握し、維持・向上に努める。 また、市内企業を対象に、環境モニタリング結果等を共有し、環境保全を一層促進するため、環境モニタリングの結果や環境法令の概要、また不適正事案の防止策等に関するセミナーを実施する。	現状の環境を保全	—	目標 — 実績 — 達成率 —	—	現状の 環境を 保全	46,340	46,161	47,126	8,325	順調	大気、水質、騒音、振動についてモニタリング計画を立て、測定を実施し、現状の環境の保全につながっているため、「順調」と判断。		
						企業の法令順守の徹底	—	目標 改善命令 0件 実績 0 件 達成率 —	改善命令 0件 0 件 —	改善命 令 0件 (毎年 度)									

令和5年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
							指標名等	現状値 (基準値)	R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)					
VI-4-(2)-② 自動車 環境対 策の推 進	45	⑦ ⑪ ⑫ ⑬ ⑰	地球温暖化対 策推進事業	グ リ ン 成 長 推 進 課 ・ 環 境 学 習 課	環 境 局 グ リ ン 成 長 推 進 課	令和3年8月に改定した「北九州市地球温暖化対策実行計画」に掲げた目標の着実な達成に向け、市民、事業者、行政がこれまで以上に計画的かつ効果的に取組を推進する必要があるため、各種調査及び啓発事業の強化等を行う。	ノーマイカーデー実施によるCO2削減量（単年度）	200+ (H26年度)	目標 前年度水準 (284+)を維持	実績 286 +	278 +	前年度水準を維持（毎年度）	4,038	7,533	4,043	3,650	順調	「ノーマイカーデー」及び「エコドラ北九州プロジェクト」参加企業等によるCO2削減量は概ね目標を達成したため、「順調」と判断。	【評価理由】 「北九州市地球温暖化対策実行計画」に掲げた目標の着実な達成に向け、市民、事業者、行政が一体となって取組を推進し、令和4年度の水準を維持している。 水素ステーションの設置については、国のFCV導入目標等が下回っている背景もあり、本市も現状維持にとどまっているが、福岡県水素拠点化推進協議会をはじめとした水素拠点形成の取組が活発化したことで、企業訪問件数は年間300件を超える大きな伸びとなっている。 以上のことから「順調」と判断。 【課題】 市民や事業者に対して、効果的な普及啓発を引き続き検討していく。 水素は既存燃料と比較して、供給コストがまだ高く、供給体制拡大に影響している。今後の社会実装に向けて、国が検討している価格差支援制度等を通じて、供給コストの低減を図る必要がある。
						エコドラ北九州プロジェクト参加事業者のCO2削減量（単年度）	505+ (H26年度)	目標 前年度水準 (883+)を維持	実績 937 +	946 +	前年度水準を維持（毎年度）	106.1 %							
46	⑦ ⑨ ⑬	水素エネルギー社会構築推進事業	グ リ ン 成 長 推 進 課	環 境 局 グ リ ン 成 長 推 進 課	水素利用の拡大方策、水素エネルギービジネス実現に向けた仕組みづくりの検討を行う。 また、水素エネルギーの社会への浸透を目指し、「本市の先進的な取組」や「水素エネルギーが身近なものであること」を市民に理解してもらえよう啓発を実施する。	水素ステーションの設置件数（累計）	1箇所 (H26年度)	目標 5 箇所	実績 3 箇所	3 箇所	R6年度までに5箇所	5,448	8,337	4,278	4,650	順調	水素ステーションの設置については、コストやFCV（燃料電池自動車）普及台数等の様々な課題があり、全国的にも目標の8割程度にとどまっている。 一方で、水素エネルギーの社会的浸透については、企業訪問、視察対応やイベント出展を通じて、本市の先進的な取組を効果的にPRしたため、「順調」と判断。		

令和5年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度 決算額 （千円）	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	
							指標名等	現状値 （基準値）	R4年度		R5年度		中期 目標	予算額 （千円）						決算額 （千円）
VI-4-(2)-③ 事業者の公害 防止に対する 環境管理の強 化	47	③ ⑥ ⑩ ⑫ ⑭	工場・事業場 監視事業	環境 監視 課	環境 局環 境監 視課	市内の工場・事業場に対し、大気汚染防止法・水質汚濁防止法等に基づいて、立入検査及び排ガス・排水中の規制項目に関する測定を実施し、事業者の環境法令の遵守を監視するとともに、環境管理の取組の促進を図る。また、市民からの公害関係苦情・要望を受け、発生源に対する指導を行う。	公害に関する苦情・要望件数 （単年度）	243件 （H26年度）	目標	300件 以下	300件 以下	300件 以下 （毎年度）	21,645	21,373	17,477	38,575	大変 順調	公害に関する苦情・要望件数は目標を達成していること、工場・事業場に対する立入検査や行政測定を計画的に実施していること、事業者向けのセミナー開催等による苦情の未然防止を着実に推進していること等から、「大変順調」と判断。	大変 順調	【評価理由】 工場・事業場に対する立入検査、行政測定を実施するとともに、事業者の環境法令遵守状況を監視し、事業者の公害防止に対する環境管理の取組を促進しているため、「大変順調」と判断。 【課題】 苦情に対して、的確に対応するとともに、苦情の未然防止の取組を継続する必要がある。
VI-4-(2)-④ 越境大気汚染 対策の推進	48	③ ⑩ ⑫	大気汚染常時 監視システム 整備保守事業	環境 監視 課	環境 局環 境監 視課	大気汚染防止法第22条の規定に基づく大気汚染状況の常時監視を行うため、公害監視センターと市内に設置した常時監視測定局から成る測定網の整備・保守を行う。常時監視結果を本市の環境保全の推進に役立てるとともに、大気環境の現状把握に努める。	大気環境の適正な把握	—	目標	—	—	大気環境の適正な把握	13,473	13,474	13,473	6,075	順調	測定装置の更新計画に基づき、適切に測定環境を整備し、正確な測定を継続実施したため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 大気環境の常時監視を行い、結果を本市の環境保全の推進に役立てており、「順調」と判断。 【課題】 大気汚染常時監視測定網の整備・保守を今後も継続する必要がある。

令和5年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度 決算額 （千円）	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
							指標名等	現状値 （基準値）	R4年度	R5年度	中期 目標		決算額 （千円）	予算額 （千円）					
VII-1-(3)-① 環境国際協力の推進	49	⑫ ⑬	環境国際協力 推進事業	環境 国際 戦略 課	環境 局 環境 国際 戦略 課	<p>途上国技術者を受け入れる国際研修や経験豊かな市内企業技術者等を諸外国都市に派遣し、現地で相手都市も主体的に関わった実践的な技術指導を実施する。</p> <p>また、国内外の関係機関と協働・連携した調査、情報収集や発信を行うとともに、各種都市間ネットワークを活用したプロジェクトを実施する。更には市内企業や国際機関等と密に連携して、協力対象国や都市の「緑の成長」にも資する環境国際協力を目指す。</p>	戦略的環境国際 協力事業の件数 （累計）	6件 （H26年 度）	目標 15 件 15 件	実績 15 件 15 件	15件 （R5年 度）	1,566	3,000	2,410	6,650	順調	<p>訪日研修や現地専門家派遣を実施したことにより、事業実施に係る現地派遣回数、目標87回のところ、実績98回と、目標を達成したため「順調」と判断。</p>	順調	<p>【評価理由】 環境国際協力推進事業について、対面での事業の実施が可能となり、訪日研修や現地専門家派遣を実施したことにより、事業の推進につながった。</p> <p>環境国際推進事業について、アジアカーボンニュートラルセンターを中核として、環境国際ビジネスにつながる国際協力事業に積極的に取り組んだ。</p> <p>全体として、成果指標の目標を概ね達成していることから「順調」と判断。</p>
	50	③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑯	環境国際推進 事業	環境 国際 戦略 課	環境 局 環境 国際 戦略 課	<p>アジアカーボンニュートラルセンターを中核として、環境に関する多様な技術や社会システム等を海外に輸出することで、地域経済の活性化を推進する。また、環境人材育成に係る研修の誘致活動や研修の実施を通じて、アジア諸都市における更なるビジネス案件の創出を目指す。</p>	アジア地域での CO2排出量を削減	本市CO2 排出量 1,835万 t（H25 年度）	目標 — — —	実績 — — —	単年度目標 設定なし — —	H25年度 比75% 削減 （R12年 度）	—	23,180	14,267	66,650	順調	<p>アジアの環境人材育成のための研修員等の受講者数が、目標の8割を達成した。</p> <p>加えて、アジア地域でのCO2排出量の削減に向けた各種プロジェクトの推進数が目標の255件を上回る279件となり、「順調」と判断。</p>	順調
						アジアの環境人材育成のための研修員等の受講者数（単年度）	1,209人 （H26年 度）	目標 — — —	実績 — — —	460 人 374 人 81.3 %	460人 （毎年 度）								

令和5年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度 決算額 （千円）	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
							指標名等	現状値 （基準値）	R4年度		R5年度		中期 目標	予算額 （千円）					
VII-2-(1)-① アジア 低炭素 化セン ターを 核とし た都市 インフ ラビジ ネスの 推進	51	③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑫ ⑬ ⑯	環境国際推進 事業	環境 国際 戦略 課	環境 局環 境国 際戦 略課	アジアカーボン ニュートラルセン ターを中核とし て、環境に関する 多様な技術や社会 システム等を海外 に輸出すること で、地域経済の活 性化を推進する。 また、環境人材育 成に係る研修の誘 致活動や研修の実 施を通じて、アジ ア諸都市における 更なるビジネス案 件の創出を目指 す。	アジア地域での CO2排出量を削 減	本市CO2 排出量 1,835万 t（H25 年度）	目標 実績 達成率	単年度目標 設定なし — —	H25年度 比75% 削減 （R12年 度）	—	23,180	14,267	66,650	順調	アジアの環境人材育成のため の研修員等の受講者数が、 目標の8割を達成した。 加えて、アジア地域での CO2排出量の削減に向けた各 種プロジェクトの推進数が目 標の255件を上回る279件と なったため、「順調」と判 断。	順調	【評価理由】 環境国際推進事業につい て、アジアカーボンニュート ラルセンターを中核として、 環境国際ビジネスにつながる 国際協力事業に積極的に取り 組んだ。 海外におけるカーボン ニュートラル促進事業につい て、FS（実現可能性調査）を 行い、市内企業の海外ビジネ ス展開等の支援に取り組ん だ。 サステナブル環境ビジネス 展開事業について、海外での 実証事業等の進出数は、目標 数に達した。 全体として、成果指標の目 標を概ね達成していることか ら「順調」と判断。
						アジアの環境人 材育成のための 研修員等の受講 者数（単年度）	1,209人 （H26年 度）	目標 実績 達成率	460 人 374 人 81.3 %	460人 （毎年 度）									
52	⑨ ⑫ ⑭ ⑯	海外における カーボン ニュートラル 促進事業	環境 国際 戦略 課	環境 局環 境国 際戦 略課	本市がネット ワークを有するア ジア諸都市におい て、温室効果ガス 排出量削減につな がるプロジェクト を実施すること で、海外における カーボンニュート ラルを促進すると ともに、市内企業 の海外ビジネス展 開やGX（グリーン トランスフォー メーション）を支 援することで、市 内における「経済 と環境の好循環」 を一層加速させる ことを目的とした 事業展開を行う。	対象地域におけ るパイロット事 業着手数 ※中期目標改訂 （R5年度目標設 定時）	—	目標 実績 達成率	6 件 7 件 116.7 %	8 件 9 件 112.5 %	8件（R5 年度）	4,848	9,200	5,100	22,000	順調	対象地域において、当初の 計画通りパイロット事業に着 手しており、目標を上回って いるため、「順調」と判断。	【課題】 海外におけるカーボン ニュートラル促進事業では、 継続的な各国・都市ニーズの 把握、ニーズに合致する市内 企業等の所有技術・ノウハウ の発掘が必要となる。	

令和5年度 行政評価の取組結果（環境局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度 決算額 （千円）	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題		
							指標名等	現状値 （基準値）	R4年度		R5年度		中期 目標	予算額 （千円）						決算額 （千円）	
53	9 12 14 15 17		サステナブル 環境ビジネス 展開事業	環境 国際 戦略 課	環境 局環 境国 際戦 略課	「SDGs推進」や 「サーキュラーエ コノミー推進」に 適応する技術や製 品を持つ市内中小 企業等の海外展開 を支援する。これ により、循環型社 会及び脱炭素社会 の実現に貢献する と同時に、本市の 環境ビジネスの 「ブランド力の向 上」と北九州市 SDGs戦略の一つで ある「技術と経験 を活かした国際貢 献の推進」を実現 する。 海外での実証事 業等の進出数 （単年度）	5件 （R02年 度中小 企業ア ジア環 境ビジ ネス展 開支援 事業の 実績）	目標	3	件	3	件	3件 （R5年 度）	7,007	14,500	11,467	2,700	大変 順調	令和5年度は、海外渡航制限 の緩和により、海外事業を再 開する企業が増え、海外での 実証事業等の進出数が目標の3 件を上回っているため、「大 変順調」と判断。		
								達成率	66.7	%	133.3	%									